

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0591100011
法人名	社会福祉法人 北秋田市社会福祉協議会
事業所名	グループホームふなみ
所在地	秋田県北秋田市鷹巣字本屋敷114-3 (電 話) 0186-60-0525
評価機関名	財団法人 秋田県長寿社会振興財団
所在地	秋田県秋田市御所野下堤5-1-1
訪問調査日	平成21年8月28日

【情報提供票より】 (21年8月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	21 人	常勤19人, 非常勤2人, 常勤換算16人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2階建ての 1 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	400 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	350 円	昼食	400 円
	夕食	450 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (8月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	2名	要介護2	5名		
要介護3	10名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 83 歳	最低	66 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	遠藤クリニック、北秋中央病院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは田園に囲まれた閑静な住宅街にあり、入居者はいながらにして四季の移り変わりを感じることができる。建物は1階と2階に分かれ、それぞれの入居者が落ち着けるような空間作りに取り組んでおり、入居者は自分の気に入った場所でくつろいでいる。
職員は認知症介護の基本的な対応に心掛け、入居者の行動を否定するのではなく、入居者の自己決定を尊重している。入居者に対して「説得」するのではなく、入居者の行動そのものを「理解」するように努めている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>不定期に発行していた便りを年に4回、定期的に発行して家族に送付している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員全体で自己評価に取り組んでおり、評価結果を法人内の他事業所にも報告して助言を頂いている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヵ月に一度行っている運営推進会議において日常的な取り組みを報告し、参加者から意見を頂いている。会議内容は全職員に伝え、さらなるサービス向上を図れるように取り組んでいる。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>入居者支援の方法を家族と共に話し合ったり、生活に対する要望を聞き入れている。独自の家族アンケートの結果もできるだけ取り入れて、運営に反映できるように努めている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入しており、「ホーム便り」を地域で回覧している。また、町内の行事にも積極的に参加したり、ホームの餅つき会に町内の人達を招待するなど地域との交流を積極的に行い、地域との連携を図るように取り組んでいる。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者を第一に考えるホーム独自の理念を立てている。理念は玄関に掲げて、誰でもわかるようにしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員はミーティング等で随時理念を確認しており、日々の活動を通して理念を実践するように努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しており、きりたんぼ会に参加したり、ホーム内の行事に住民を招待したりと、地域との交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年度の評価結果を法人内の他事業所に報告したり、事業所独自で行った家族アンケートの結果、改善できる項目に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月に一度、市の高齢福祉課課長、町内会長、民生委員、家族代表らが参加して運営推進会議を開催しており、さらなるサービス向上につながるよう取り組んでいる。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	母体が市の社会福祉協議会なので、法人事務局を通して行政と密に連携が取れており、制度の理解及びサービスの向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、入居者の金銭管理に係わる明細書を送付している。定期的に「ホーム便り」も発行している。また、入居者が医療機関を受診する時はそのつど報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族に参加して頂いたり、家族アンケート等によって家族の意見を把握し、その意見や思いを運営に反映できるように取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の各事業所の質の向上のため、定期的に職員の異動を行っている。新しい職員を楽しみにしている入居者もいる反面、新しい職員に馴染めない入居者もいるので、少しずつ慣れて頂くように柔軟い対応に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員を計画的に認知症介護に関する外部研修に参加させるなど、専門知識の習得に取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他事業所との連携を活かした人材育成及び内部研修を実施したり、外部研修に積極的に参加する等して職員の資質向上に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	家族または担当介護支援専門員が事前にホームを見学して概要を説明している。家族の情報を基に初期の介護計画を立案して、職員が統一した対応ができるように努力している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中で一人ひとりが得意な分野を見つけ、それらを活かして、入居者が生きがいを感じる事ができるような支援に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの情報や以前の生活状況を基に一人ひとりの意向を把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人及び家族の意向を基に日常の介護に関して職員同士で話し合い、介護計画に反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	半年毎に評価及び見直しを行っており、その期間内でも状況が変化した場合は随時新たな介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	一人暮らしをしていた入居者が、定期的に自宅を訪れることができるように支援している。また、介護保険更新の手続きや入院時の準備等、必要に応じて柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望により、入居前からのかかりつけ医が継続できるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合に協力して頂ける医療機関を確保している。利用契約時は家族及び本人に重度化に関する指針を説明して同意を得ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の誇りを大切にして、本人が馴染んで頂ける声掛けに配慮・支援している。 個人情報の管理、持ち出し等、取扱いには十分注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の活動内容を説明して、入居者の希望がある場合には可能な限り対応しており、入居者の意向を重視した支援に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の献立をもとに、嫌いな食材を変更するなど一人ひとりの好みに応じた食事を支援している。食事の際は職員も同席して、会話を楽しみながら食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しむように支援している	日課の中で基本的な入浴時間はあるものの、当日の入居者の体調や精神状態に応じて時間帯を変更するなど柔軟に対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者一人ひとりの生活歴を基に、日常生活の中で掃除や食事の準備など、得意分野を活かせるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の希望に応じた、日々の散歩や買い物等にも出かけている。また、花見や祭りに出かける等、季節に応じた外出支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	日中は玄関を施錠せずに自由に入出入りできる。外出したがる傾向にある入居者には職員が付き添うようにしている。 居室には鍵はついていない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、全職員が参加して避難訓練を実施しており、夜間を想定した訓練も行っている。緊急連絡網を整備して職員及び関係部署、町内会の方に迅速に伝わるようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	専門知識を持った職員により栄養バランスのとれた献立が作成され、一人ひとりの病状に合った栄養が摂取できるように努めている。水分及び食事の摂取量は毎回記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有場所のテレビの音を調整したり、職員が必要以上に大きな声で対応しないように穏やかに過ごせる空間になるように努めている。廊下には季節の行事の内容を掲示したり全体的に居心地がよくなるように配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族が希望する家具等は自由に持ち込んで頂き、居室内は一人ひとりの生活様式に合わせた配置となって、心地よく暮らせるように配慮している。		

※ は、重点項目。